学道一如

発行
小樽双葉高校
新聞部
2026年6月26日
第18号

海上保安庁の訓練に参加
マニュアルなし緊張感漂う

6月18日、小樽勝納埠頭で行われた旅客船事故対応訓練に新聞部員3名が参加した。

この訓練は海上保安庁、警察署、消防署などにより合同で実施された。新日本海フェリーの客船「あざれあ」車庫内で火災が発生し、初期消火に成功するも乗客がパニックになり、負傷者が多数発生し、救助が必要になったという想定だった。

埠頭の駐車場には護送車やパトカー、救急車などが並び、多くの警察官、救急隊員、海上保安官が待機し、緊張感が漂っていた。

この訓練ではマニュアルを公開せず、事前に何時に警報が鳴るということも一切知らされず、参加した生徒が談笑している中で突然訓練が始まった。

訓練が始まると、海上保安、警察、消防の方々が互いに連携を取り、迅速に重傷者の救助にあたり、無線を使ったやり取りをしていた。それを間近に見て、学校の避難訓練とは違う緊張感を肌で感じた。

重傷者の救助が終わり、乗務員の方の指示で下船すると、北海道新聞社の方が取材にいらしており、思いがけず本物の新聞記者の方に取材を受けるという新聞部員としてこの上ない経験をさせていただいた。

この訓練を通じて、事故や災害の際には焦らず訓練のことを思い返して、警察の方などの指示に従い、冷静に行動することが被害を最小限に抑えられると感じた。

（阿部優里愛・菊地羽菜・落合優翔）

本校参加者

船内の様子

担架で運ばれる人

バドミントン部女子
全道で感じた手応え

納得できる内容　旭川で行われた全道大会、団体戦では北海（3位）と対戦し、0−3で敗れた。だが、ダブルスは2組共ファイナルまでいった。主将の住吉ももさんは「札幌相手にここまで戦えるという手応えを感じた」という。3年間、きついトレーニングに耐え、最後の試合、納得できる内容で終わることができ、「ここまでやってきてよかった」と思っている。

負けて悔い無し　ダブルスとシングルスで出場した山田瑠菜さんは双方、北星女子と対戦した。高校から始めたダブルスで尾山葵衣さんと組み、今回互角に戦え、成長を感じられた。シングルスでは団体戦のトップシングルスの生徒と対戦した。強い選手だったが、フルセットで1ゲーム取ることができた。「やり切った。一番良い試合ができた。周りからも褒めてもらえた」という。高校時代の公式戦を悔いなく終えることができた。

女子バスケットボール部
全道大会、普段のプレーできず

初戦で札幌北斗と対戦し、91-65で敗れた。３年生が緊張して、いつも通りのプレーができなかった。主将の大竹聖奈さんは「スタートの入りが良くなかった。常に競ったゲームをしないと、追いつくことは難しい。「やらなきゃ。失敗したらどうしよう」と考えすぎて、動けなくなったという。３年生は２人が残り、９月の選手権、11月のウインターカップへ参戦し、リベンジを誓う。

クルーズ船観光案内

6月22日の午後、クルーズ船コスタ・セレーナ号の観光案内に15名が参加した。

乗客は主に韓国人観光客で、即席で覚えたハングルと英語を使いながら観光案内のお手伝いをした。観光バスで目的地へ向かう人が多かったものの、タクシー利用者もいて、スムーズに移動できるよう行き先を聞き、メモを作り、運転手さんに渡してもらった。

→歩道とタクシー乗り場へ誘導、乗り場で行先を聞きメモを渡した

歓迎の横断幕を持ちお出迎え「アンニョンハセヨ」

↑手頃な温泉を紹介してほしいというリクエストも

→ターミナルでは観光案内をした

↑オルゴール堂、イオン、飲食店などの行き先をハングルで聞き出した